

愛川町の取組



愛川町全体で推進する小中一貫教育の中で、同じ中学校区の小・中学校3校が共通の「めざす子ども像」を「自立し協働してたくましく生き抜く子」と掲げ、「学力向上」「交流連携」「児童・生徒支援」という共通の3つの視点をもって、「授業改善」や「教員交流指導」を推進しながら、学びの確かな継続のため取り組んでいる。

各校では、「学習の中の言語活動を通して思考力・判断力・表現力などを育む」ための校内研究を推進しながら、相互の校内研究に参加し、参観・協議を行うとともに、小中合同研修会を設けることで、小中のつながりを大切にしながら授業の充実を図っている。

半原小学校

研究テーマ

「未来型授業 (SDGs×STEAM×GIGA×PBL)」
で未来社会を切り拓く力を育む

【研究の内容】

VUCAの世の中で生きていく子どもたちには次の6つのCの力（以下「6Cの力」という）が必要と考えた。〔Critical thinking（批判力）、Creative thinking（創造力）、Confidence（自信・信用）、Challenge spirit（挑戦）、Collaboration（協働力）、Communication（意思疎通力）〕

本校では、150周年を記念して「半原のよさ、みんなにとどけ！」の学習テーマの下、生活科及び総合的な学習の時間をとおして「SDGs」の目標を学習課題に設定し、「STEAM」教育が成立する単元計画をカリキュラムマネジメントしてきた。また、「GIGA」スクール構想で整備されたICT機器をフル活用しながら、「PBL」の探究プロセスをスパイラルに繰り返して「未来型授業」を進めてきた。この未来型授業をとおして未来社会を切り拓く「6Cの力」を育むことができるよう取り組んできた。

【成果】

150周年の機運が、半原のよさを再発見しようとする子どもたちの動機付けとなり、意欲的に取り組む姿が見られた。生活科・総合的な学習の時間の特性である教科横断的な学習を進めることができ、既習の学習内容を駆使して取材やまとめ、発表等を行う姿が見られた。「6Cの力」が身につけてきたかどうかは、今後アンケート等で見ていきたい。



愛川中学校

研究テーマ



「つなぐ・つながる」

1. 生徒の知識がつながる授業
2. 授業の中で生徒同士が繋がっていく授業
3. 授業と評価をつなげていく授業
4. 授業と家庭学習をつなげる授業
5. 学年・校種・教科間をつなげていく授業

【研究の内容】

- ・授業研究を基盤とした授業改善
- ・校内研だよりの発行
- ・教員相互の授業を見合うことでの授業改善の推進

【成果】

年度当初、指導と評価の一体化における学習評価の在り方についての研修会を開催し、各単元（題材）での評価場面や評価材料、総括方法の共通理解を図った。そのことで、教科の垣根を超えた指導案検討や相互に見合う授業等でより活発な意見交換がなされた。また、研究授業後の生徒インタビューでは、教員では気づかない視点での指摘に、個別最適な学びの充実に向けての新たな課題を共有することができた。

田代小学校

研究テーマ

「表現する力を育てる授業づくり」

全教科・全領域にて、児童の表現力を育てるための取り組みを行った。

【研究の内容】

- ・児童に身につけさせたい表現力について協議を行った。
- ・各教科における表現について学習指導要領をもとに共通理解を図った。
- ・全ての学級（すべての学年が単級）で授業を公開し、全職員で全児童を見取りながら研究に取り組んだ。

【成果】

校内研究会では、スクールカウンセラー米谷しのぶ先生、横浜国立大学教職大学院の青木弘先生、白梅学園大学子ども学部三藤敏樹先生のご助言、ご指導のもと、各学年の実態に応じて表現する力を育てる授業を考え、実践してきた。その中で、表現したくなる環境づくりに焦点をあて、①表現する雰囲気を作るための工夫、②見通しを持たせるための工夫の2点を協議の柱として、研究を深めることができた。

